

乳がん検診受診者募集

乳がんは、日本人の16人に1人がかかるといわれています。早期発見のためにも検診を受けましょう。マンモグラフィ検診は午前中も実施します!!
今年度から視触診はありません。個人負担も変わります。乳がん集団検診は1月にも実施予定です。

①超音波検診

▽料金 800円

▽対象年齢 30～40・42・

44・48・50・52・54歳

▽受付時間

・午後1時～1時15分

・午後1時45分～2時

②マンモグラフィ単独

(2方向) 検診

▽料金 1300円

▽対象年齢 41・43・45・

46・47・49歳

▽受付時間

・午前9時30分～9時40分

・午後1時～1時15分

③マンモグラフィ単独

(1方向) 検診

▽料金 800円

▽対象年齢 51歳以上の奇

数年齢、56歳

▽受付時間

・午前10時30分～10時40分

・午後1時45分～2時

※いずれの検診も対象年齢

は平成26年3月31日現在

▼検診日 11月5日(火)～8

日(金)・11日(月)▼対象となら

ない方 勤務先で検診を受

ける方／妊娠中または可能

性がある方／現在乳房疾患

で治療中または経過観察

中の方※豊胸手術後の方、

ペースメーカー使用の方、

授乳中・卒乳直後の方は原

則受診不可(詳細は要相談)

▼定員 ①1日30人／②③

50人(午前・午後各25人)

※超過の場合抽選▼申込方

法 氏名、年齢、検診名、

希望日を電話または窓口で

伝え、申し込む▼申込期間

10月7日(月)～11日(金)※午前

8時30分～午後5時15分

▼会場、申込・問合先

保健センター

☎48・6000

取手市医師会健康教室

ノロウイルス胃腸炎の予防法

ノロウイルスは急性胃腸炎の病原ウイルスで、特に秋から春先にかけて流行し、乳幼児から高齢者まで幅広い年齢層で、今年も全国的に流行が予測されています。このウイルスは非常に感染力が強く、100個以下という少量でも、人に感染し発病します。一方、患者の嘔吐物や糞便には1グラム当たり1000万～10億個ものウイルスが含まれているといわれ、汚物処理が不十分な場合、集団感染を引き起こす可能性があります。感染を予防するためにはまず「どこから」「どのようにして」感染するかを知ることが重要です。

空気感染とは、嘔吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために、嘔吐した場所に残留したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激により空気中に舞い上がり、これが空気中を漂う間に、すぐそばではなくとも同じ部屋にいる人が吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。この経路による感染の実例としては、レストランで患者さんが嘔吐した際、同じ部屋の離れた場所ですることで感染することもありました。予防法としては手洗いの徹底が重要です。

飛沫感染とは、嘔吐物や下痢便の処理や、勢いよく嘔吐した人のごく近くにいた際に、嘔吐行為または嘔吐物から舞い上がる飛沫を間近で吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。飛沫感染が発生する距離は通常最大1m前後とされていて、このような経路でのノロウイルス感染は日常的に発生していると考えられます。

空気感染とは、嘔吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために、嘔吐した場所に残留したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激により空気中に舞い上がり、これが空気中を漂う間に、すぐそばではなくとも同じ部屋にいる人が吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。この経路による感染の実例としては、レストランで患者さんが嘔吐した際、同じ部屋の離れた場所ですることで感染することもありました。予防法としては手洗いの徹底が重要です。

飛沫感染とは、嘔吐物や下痢便の処理や、勢いよく嘔吐した人のごく近くにいた際に、嘔吐行為または嘔吐物から舞い上がる飛沫を間近で吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。飛沫感染が発生する距離は通常最大1m前後とされていて、このような経路でのノロウイルス感染は日常的に発生していると考えられます。

このように、ノロウイルスの感染拡大を防ぐことは決して容易なことではありませんが、ウイルスの特徴をよく知って、適切に対応することが求められます。

空気感染とは、嘔吐物や下痢便の処理が適切に行われなかったために、嘔吐した場所に残留したウイルスを含む小粒子が、掃除などの物理的刺激により空気中に舞い上がり、これが空気中を漂う間に、すぐそばではなくとも同じ部屋にいる人が吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。この経路による感染の実例としては、レストランで患者さんが嘔吐した際、同じ部屋の離れた場所ですることで感染することもありました。予防法としては手洗いの徹底が重要です。

飛沫感染とは、嘔吐物や下痢便の処理や、勢いよく嘔吐した人のごく近くにいた際に、嘔吐行為または嘔吐物から舞い上がる飛沫を間近で吸入し、経食道的に嚥下して消化管へ至る感染経路です。飛沫感染が発生する距離は通常最大1m前後とされていて、このような経路でのノロウイルス感染は日常的に発生していると考えられます。

このように、ノロウイルスの感染拡大を防ぐことは決して容易なことではありませんが、ウイルスの特徴をよく知って、適切に対応することが求められます。